



女性の社会進出の実現を目指して

● 問合せ 企画政策課男女協働推進係 (☎ 23 - 2115)

今年の市議会議員選挙で、女性議員はこれまでの2人から倍増して4人になったものの、議員定数の2割にも満たない状況です。

女性が社会進出をしていくにあたっては、家庭と社会での障壁があり、それが女性の社会進出を阻害しているようです。

家庭においては、家事・育児・介護などの女性の負担が大きくなっていますが、このことを一般的だと捉える人がいまだに多いようです。このような状況が解消され、家事などの負担が男女で対等になれば、スキルアップできる時間が確保できることなどから、社会で活躍する女性が増えるのではないのでしょうか。

男女ともに幼少期から家事を学び、だれでも家事をするのが当たり前になれば、必然的に固定的な役割分担意識が薄れ、男女共同参画社会が実現していくと思います。

また、社会においては、以前より多様化が進んではいるものの、資質・実績があっても女性を一定の職位以上には昇進させようとする組織内の見えない障壁を指す『ガラスの天井』が存在します。



例えば、就業者に占める女性の割合は諸外国と比べて大きな差がないのに対して、管理的職業従事者に占める女性の割合は低くなっています。

このことは、女性がステップアップを目指しても、研修で家を留守にしたり、残業が増えることを危惧したりして、昇進をあきらめる人がいるからではないのでしょうか。

自分の持っている能力を最大限に発揮してこそ人間らしく生きることが出来ると思います。

女性の社会進出において『女性初』や『女性目線での』という言葉が無くなるような、多様性にあふれた社会が実現されることを願っています。

郷土の文化財

にっぽうしゃしたかまあと

史跡大川内鍋島窯跡調査事業 ～日峯社下窯跡の調査成果④～

日峯社下窯跡では初期の鍋島焼を焼いていましたが、鍋島焼を焼成していたのは火力の具合が一番良い窯中央部分の3室分程度を使い、それ以外の焼成室は一般製品を焼成していたと考えられます。

焼成に失敗した製品は鍋島焼も一般製品も、物原ものばら（失敗製品の捨て場）に廃棄されています。数量的には鍋島焼の失敗品が数%で、残りはすべて一般製品の失敗品です。

売り物にならない一般製品は、そのまま物原に捨てられています。鍋島焼は意図的に小さく割り、さらにあちらこちらに分散して捨てられていました。

これは、鍋島焼の失敗製品が外に持ち出されたり、意匠（デザイン）や製作技術が一般製品にまねされたりしないようにするための対応だったと考えられています。

発掘調査では2cmほどに割られた小さな鍋島焼の破片が出土しましたが、現時点では小さすぎて意匠も全体の形もわかっていません。



↑ 意図的に割られた破片

● 問合せ 生涯学習課文化財係 (☎ 22 - 1262)